



綾の海

グランドテーマ「自立と共生」

自ら学ぶ
心豊かな
たくましい子ども

○考える子ども
○やさしい子ども
○元気な子ども

令和4年2月28日(月)NO.101

TEL 42-2100 文責 熊谷 賢

6年生さん 今までありがとう!

2月25日(金)の3・4校時にかけて「6年生を送る会」が計画通り無事に行われました。

つい2週間ほど前までは、コロナ感染予防対策として6年生の前に各学年が時間差で登場して演技するとか、ライブ映像を流すとか、制限付き開催を考えていました。しかし気仙地区の感染状況が収束している今なら「計画通りにできる」と判断しました。

今年の会は90分の大掛かりなものでした。そして各学年の発表は、ダンスあり、6年生へのチャレンジコーナーあり、大漁唄い込みあり、クイズあり……と、今までお世話になった6年生へ心から感謝の気持ちを込めた素晴らしいものでした。

会は6年生の入場からスタートです。入場してくる6年生一人一人に対して、考え抜かれた紹介アナウンスが流れ、会場を沸かせました。照れくさそうに苦笑いする子、お得意のポーズを決める子、すまし顔で一礼する子……どの子も嬉しそうでした。

各学年の発表の後には、それぞれの学年に6年生からメッセージやダンスなどが贈られ、最後は全校児童で「ビリーブ」を歌い、しつとりと会は幕を閉じました。

会を成功させるために各学年それぞれが自分たちの役割を果たし、会場が一つになり優しい空気に包まれていく様子には私は感動していました。



2年生はダンスを披露

6年生が退場した後、新児童会長さんが、在校生に向けて会の成功とそれを支えた準備に対して、堂々とお礼の言葉を述べました。この会の準備は、もちろん在校生全員で行いました。1年生は似顔絵づくり。出来上がった似顔絵は6年生への寄せ書きの表紙となりました。2年生は招待状作り。3年生と4年生は花飾りと折り紙の輪で会場の装飾をしました。そして5年生と新執行部は会全体の統括と進行を行いました。

6年生の皆さんにとって、この会は思い出深いものになったと思います。在校生の感謝と励ましを胸に、中学校に行っても活躍してほしいです。



プレゼントを受け取る6年生



5年生による6年生クイズ



6年生の合奏「明日があるさ」



綾の海

グランドテーマ「自立と共生」

自ら学ぶ
心豊かな
たくましい子ども

- 考える子ども
- やさしい子ども
- 元気な子ども

令和4年3月7日(月) NO.102

TEL 42-2100 文責 熊谷 賢

1・2年 できたよ 発表会

2月28日(月)、1・2年生が多目的ホールで「できたよ発表会」を行いました。これは1・2年生がこの一年間の学習でできるようになったことをお互いに発表し合い、その成長を認め合おうとする活動でした。



習っていない漢字を使って自分の名前が書けます。

始めは1年生の発表です。自分の名前を漢字で書けるようになったこと、たし算やひき算ができるようになったこと、時計がよめるようになったこと、あいさつや掃除ができるようになったこと、他にも跳び箱、お手玉、ハードル越え、なわとび、幅跳び、サッカーなど、できる

ハードル飛び越しジャンプも軽やかにできます。



難しい漢字も丁寧に書けます。

次は2年生の出番です。漢字グループ、九九&折り紙グループ、音読グループ、なわとびグループ、跳び箱グループに分かれて、1年生時代からの成長を披露しました。そして最後にダンスを発表しました。1年生は、「2年生になるとこんなにできるようになるんだ。」と、憧れをもって目を輝かせていました。

自分の成長を振り返ることにより、岩手県の児童に足りない「自分には良いところがあると思える児童の割合」が増えていくものと思われます。

九九のスピード問題&折り紙折り



— 学校・家庭・地域を結ぶ —

綾の海



大船渡市立綾里小学校

校報



綾里小学校公式ホームページ

<http://www.ofunato-school.jp/ryori/>

グランドテーマ「自立と共生」

自ら学ぶ
心豊かな
たくましい子ども

○考える子ども
○やさしい子ども
○元気な子ども

令和4年3月8日(火)NO.103

TEL 42-2100 文責 熊谷 賢

5年生 森林学習のまとめ

苗木の春芽の観察



3月2日(水)、5年生がつむぎの家で森林学習のまとめの活動をしました。

6月に植樹した苗木に小さな春芽がついていることを観察したり、木をまっすぐに生長させるために枝の剪定が必要なことを学んだりしました。また剪定枝の片づけ作業もしました。

私も里山を訪れるたび、ここには循環型の生態系が実現されていると感じます。子どもたちが里山(つむぎの家)に魅力を感じるのは、命あるものとして無意識に自然の一部に身を置こうとしているのかもしれない。



枝の片づけ作業

子どもたちは、一年間の学習を振り返り、木は空気をきれいにし、緑は心を和ませてくれる大切なものであることをみんなで確認し合い、学習のまとめとしました。

耕基さん、永久世さんへ

3・4校時に行った奉仕活動では、耕基さん、永久世さんに一年間お世話になったお礼にお二人のお手伝いをしました。里山がきれいになって良かったと思います。

私は前まで自然に興味がなく、災害が起きるため怖くて危険なものだと思っていました。しかし、つむぎの家での行事を通して自然は怖いときもあるが何も起きなければたくさんの恵みを人間にもたらしてくれることが分かりました。

この一年間、田植え、草取り、稲刈り、収穫祭、そして奉仕活動、たくさんお世話になりました。5年生での活動はもう終わりですが、休みの日などは遊びに行くことができると思います。それに20歳になったら植樹をした木を見に来ます。お二人にはお体に気をつけていつまでも元気に過ごしてほしいと思います。

スクールガード さん、
今までありがとうございました!

令和2年度から、スクールガードとして児童の登下校の見守りをしてくださったさんが、今年度をもってご退任されることになりました。

今後もお体を大切に、いつまでもお元気でお過ごしください。今までありがとうございました。



全校児童がおやつをいただきました。

— 学校・家庭・地域を結ぶ —

綾の海



大船渡市立綾里小学校
校報



綾里小学校公式ホームページ
<http://www.ofunato-school.jp/ryori/>

グランドテーマ「自立と共生」

自ら学ぶ
心豊かな
たくましい子ども

○考える子ども
○やさしい子ども
○元気な子ども

令和4年3月9日(水) NO.105

TEL 42-2100 文責 熊谷 賢

4年 キャップハンディ体験



3月2日(水)、4年生がキャップハンディ体験(車いす体験)をしました。

体の不自由な方の疑似体験を通して、子どもたちは相手を思いやる気持ちを深めていました。

岩手県立福祉の里センターの方へ

車いす体験では、いろいろなことを教えていただき、ありがとうございました。車いすの介助の仕方がよくわかりました。車いすで一番大切なところは、タイヤではなくブレーキだとわ



かりました。そして、車いすは速く押すのではなくゆっくり押すこともわかりました。介助するときに難しいこともたくさんわかりました。特に段差のところで音が鳴ってしまったので、ならないように気をつけたいです。

この体験をして、どんな人にも優しくして、困っている人がいたら声をかけたいと思いました。(4年)



岩手県立福祉の里センターの方へ

3月2日はありがとうございました。車いすの乗り方や介助の仕方がよくわかりました。乗っている人が安心できるように、しっかりと介助することができたとし、乗る側になったときは、介助してくれた人の言うことをよく聞いて乗れました。車いすには大事なことがたくさんあることがわかりました。(4年)

おめでとうございます！
CGC児童画コンクール入賞

◎全国入選

1年

3年

◎店長賞

3年

6年



綾の海

グランドテーマ「自立と共生」

自ら学ぶ
心豊かな
たくましい子ども

○考える子ども
○やさしい子ども
○元気な子ども

令和4年3月10日(木) NO.106

TEL 42-2100 文責 熊谷 賢

5年 高齢者疑似体験

3月2日(水)の4年生の車いす体験に続き、3日(木)には5年生が総合的な学習の時間に高齢者疑似体験を行いました。講師は福祉の里センターの方です。

足首と手首におもり、膝と肘には曲がりにくくなるものを装着、両手の人差し指と中指・薬指と小指を2本ずつテープで固定し、さらに、見えにくくなる特殊なメガネをかけ、耳栓もして、高齢者の生活を体験してみました。



子どもたちの感想の中には、

「お年寄りは、どうしていろいろなところを痛めやすいのか気になっていましたが、この体験をしてみて体が動かしにくいからだとわかりました。自分の思い通りに動けなくて、心がもやもやしました。」

「一番難しかったのはトイレです。しゃがんだり立ったりで、足を曲げ伸ばししなければならぬのが大変でした。」

「目が見えずらくなったり、耳が遠くなったりすることがどんなに大変か、自分の体で感じることができました。高齢者や障がいをもっている人だけでなく、いろいろな人を助

けていきたいなと思いました。」
「お年寄りがレジでお金を払うのに時間がかかるのを、指が思うように動かないのかなと軽い気持ちで見えていたけど、今日体験してみたらその通りだったので、これからはやさしい気持ちで見守ってあげたいと思いました。」

など、思うように体が動かない大変さを知り、「これからはお年寄りにやさしくしてあげたい」「困っていたら声をかけてあげたい」といった思いをもった子がたくさんいました。



学級集金についてのお詫び

今年度、複数の学級で学級集金を年度途中で追加集金するということが起きてしまいました。

原因は次の3点です。

一つは、4月に集金するはずの安全互助会等の金額を教材費等の集金計画に入れていなかったためです。

二つ目は、会計処理システムが年度途中で変更になり、混乱が生じたためです。

三つ目は、会計に関するチェック機能が十分に働いていなかったためです。

今後、こうしたことが起きないように、十分に気をつけていきます。申し訳ありませんでした。

来週、学級集金の会計報告書が配付されますので内容をご確認ください。よろしくお願いいたします。



綾の海

グランドテーマ「自立と共生」

自ら学ぶ
心豊かな
たくましい子ども

- 考える子ども
- やさしい子ども
- 元気な子ども

来年度の学校経営

学校は今、来年度に向けて経営の見直しや改善案の検討を行っています。



学校運営協議会準備委員会 (3/7)

2月18日(金)の学校評議員会、3月2日(水)のPTA三役会、3月7日(月)の令和4年度学校運営協議会準備委員会(来年度のPTA会長に内定している保護者も参加)を経て協議した結果、以下の点を大きく変更しようと考えましたので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

地区子ども会を各地区に返し、学校はその活動に直接関与しないこととします。

<理由>地区子ども会の人数バランスの差が大きいため、学校が一律に指導することが困難であるためです。ただし、学校は地区子ども会活動により児童の自主性が伸長されることを期待し、長期休業中前に地区子ども会活動を推奨し、お楽しみ会・リサイクル活動・勉強会などの活動例を紹介します。また、地区子ども会を各地区に返すことにより、地区子ども会の自由度が増します。例えば「白浜・二浜」子ども会は、学校が人数調整のために便宜上組織した子ども会であり、今後はそうしたシバリはなくなります。

そのため、

- ・学校は地区子ども会担当者を設定しません。
- ・地区子ども会活動を行うかどうかは、各地区の判断にお任せします。
- ・学校は、地区子ども会を実施する地区のため、

令和4年3月11日(金)NO.107

TEL 42-2100 文責 熊谷 賢

- 活動計画作成スケジュールを提供します。
- ・学校は、長期休業中の児童の様子を把握する必要があるため、地区子ども会活動を行う地区に活動予定を報告していただきます。
 - ・PTA地区委員は、今まで通り配置し、各地区の活動の調整や課題に対処していただきます。

資源回収は学校では行わないこととします。

<理由>これまで、資源回収はPTA地区委員が中心となって地区子ども会の活動として行ってきました。しかし上記の通り地区子ども会を一律に組織することが困難です。現実には白浜地区は子ども会が2名しかいないという理由から資源回収には参加しない予定でした。また、港地区は来年度から児童がいなくなるという理由で参加しない予定になっていました。

資源回収は学校では行わないこととしますが、今後、公民館事業に移行させようという考えもあり、現在可能性を探っているところです。

※他にも、情報モラル教育の活性化等、変更点はいくつかありますが、詳しくは新年度になってからPTA総会等でお知らせします。



さん 6年間皆勤賞!

6年生の さんは、令和4年2月28日時点で6年間一度も欠席がなかったことから、大船渡西ロータリークラブから表彰状が贈られました。6年間1193日無欠席!すごいですね。



綾の海

グランドテーマ「自立と共生」

自ら学ぶ
心豊かな
たくましい子ども

○考える子ども
○やさしい子ども
○元気な子ども

令和4年3月14日(月)NO.108

TEL 42-2100 文責 熊谷 賢

3.11集会

1 1年目の3月11日が来ました。全校で集会をもちました。コロナが蔓延していますが、感染者や濃厚接触者のいない綾里では、「3.11は特別な日」ですのであえて実施しました。

集会では、私は次のことをしました。

- 1 当時の様子と復興の経過を伝える。
- 2 2013年度に6年生だった児童たちが、当時の交流校であった水沢市立前沢小学校の6年生に送ったプレゼンを見せる。※震災を知らない児童という意味では現在の本校の児童も同じと考えました。
- 3 これからも一生懸命に生きようというメッセージを児童に伝える。

うまく伝えられたかどうか……保護者の皆様にも(もしできれば)この1年間を子どもたちに語って聴かせていただきたいと思っています。

岩手日報社は、3.11を「大切な人を想う日」と提唱しています。私は賛同しています。

右の詩は、岩手日報社でも「大切な人を想う日」に合わせて掲載している詩です。じっくりと読んでみてください。

最後までわかっていたなら

あなたが眠りにつくのを
わたしが もっとちゃんとカバーをかけて
神様にその魂を守ってくださるよう
祈っただろう

あなたがドアを出ていくのを
わたしが あなたを抱きしめて キスをして
そしてまたもう一度呼び寄せて抱きしめただろう

あなたが喜びに満ちた声をあげるのを
わたしが その一部始終をビデオに撮って 毎日繰り返し見ただろう

あなたは言わなくても分かって
最後までわかっていたなら
一言だけでもいい……「あなたを愛してる」と わたしは伝えただろう

たしかにいつも明日はやってくる
でももしそれがわたしの勘違いで 今日で全てが終わるのだとしたら
わたしは 今日 どんなにあなたを愛しているか伝えたい

そして わたしたちは 忘れないようにしたい

若い人にも 年老いた人にも
明日は誰にも約束されていないのだということを
愛する人を抱きしめられるのは
今日が最後になるかもしれないことを

明日が来るのを待っているなら 今日でもいいはず
もし明日が来ないとしたら あなたは今日を後悔するだろうから

微笑や 抱擁や キスをするための
ほんのちょっとの時間を どうして惜しんだのかと
忙しさを理由に その人の最後の願いとなってしまうことを
どうしてしてあげられなかったのかと

だから 今日 あなたの大切な人たちを しっかりと抱きしめよう
そして その人を愛していること
いつでも いつまでも 大切な存在だということを そっと伝えよう

「ごめんね」や「許してね」や「ありがとう」や「気にしないで」を
伝える時をもとう
そうすれば もし明日が来ないとしても
あなたは今日を後悔しないだろうから

(ノーマ・コーネット・マレック作/佐川睦 訳
「最後までわかっていたなら」サンクチュアリ出版)



綾の海

グランドテーマ「自立と共生」

自ら学ぶ
心豊かな
たくましい子ども

- 考える子ども
- やさしい子ども
- 元気な子ども

令和4年3月14日(月)NO.109

TEL 42-2100 文責 熊谷 賢

3.11集会に参加して。。。

(児童の感想より) **メッセージ、伝わったかな…。**

何度も見たことのあるあの映像は「怖い」という感情よりも「知ることができてよかった」という気持ちにつながります。やっぱり初めて見た時は「こわい」「見たくない」という気持ちもありましたが、11年経ったからこそ、今の私だからこそ冷静に見られるんだなと心から思いました。

当時はまだ小さくて覚えていませんが、家族からよく聞かされます。私の家族はみんなが無事で一緒に過ごせています。それが何よりも幸せだと改めて感じさせられました。全校児童や先生方が一つの場所に集まって、同じ映像を見たり、校長先生のお話を聞いたりしました。一人一人の考えや思いは違うと思いますが、この3.11集会は毎年やるべきだと思いました。

私のひいおばあちゃんは、何度も大津波にあっています。そのことを私たち子どもに何度も聞かせてくれます。それはとてもためになるので「聞き飽きた。」とか「もういい。」などと言ったことがないし思ったこともありません。だから私は避難場所を確認するし、避難訓練も真剣に行っています。一日一日(毎日)を大切に過ごしていきたいし、「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つのキーワードを大切にしていきたいです。



私が生まれて1年ほどしか経っていない頃に起きた東日本大震災について、スライドや映像を見ながら自分の記憶にないけれどなんだか昔体験したことがあるような同じ風景を見たことがあるような気持ちになりました。

あれから今日でちょうど11年。長い年月を経てもなお、その日が近づいてくるとドキドキしたり不安になったりしてしまう人がまだたくさんいると思うと、私には想像できない程の恐怖と悲しみが体験した人にはあったんだと改めて感じました。

11年間の年月の中で、東日本大震災の経験が記憶にない私たちや内陸に住んでいる方々に語り継がれてきて、「津波てんでんこ」などの教えが広まっていったと思います。決して忘れてはいけない震災のことを後世に語り継いでいくのは、とても大切なことだと改めて強く思いました。

津波の映像を見ていると、人々の「早くにげてー！」などという叫びに悲しさと必死さが伝わってきました。この津波で生き延びた人も、大切な何かを失った人々がたくさんいるんだなと思いました。生きる希望を失って自殺しようとした人もいたことを考えると、心が痛いです。私は、そんな人々を助けたいと思います。今もつらい思いをしている人に、少しでも生きる希望を与えられないかなと思います。

私にできることは、次のようなことを訴え、伝えていくことです。この津波を知らない人に、この津波でどれくらいの命が失われたか、一人一人が生きる希望をもつこと、自分の命を守ること、もしまた大きな地震があったら津波がくるかもしれないこと、死者や行方不明者を少しでも減らすこと。きれいごとばかりだけど、私が知っていることを知らない人に伝え、この津波のことを風化させないこと。これが私にできることなんじゃないかなと思いました。



綾の海

グランドテーマ「自立と共生」

自ら学ぶ
心豊かな
たくましい子ども

- 考える子ども
- やさしい子ども
- 元気な子ども

令和4年3月16日(水) NO.110 (最終)
TEL 42-2100 文責 熊谷 賢

8年間のご協力に感謝いたします



平成21年度～平成26年度までの6年間、そして令和2年度～令和3年度までの2年間、計8年間もの間、綾里の保護者の皆様、地域の方々、そして子どもたちに助けられながら、ここまでやってこれることができました。心よりお礼申し上げます。

8年……私の教職歴は32年ですので、教員生活の4分の1を綾里に関わって過ごしてきたことになり、改めて綾里が私の教員生活の中に占める影響の大きさを再認識します。

実は、教育を仲立ちとする私と綾里との出会いは、私が生まれる以前からありました。というのも、私の父親（熊谷七五三男）が高校を卒業し、代用教員として赴任したのが砂子浜小学校だったのです。砂子浜に下宿しながら小林信夫先生らと勤務を共にしていたと聞いています。前漁協組合長の佐々木靖男氏は私の父親の教え子だそうです。そんなこともあり、綾里には昔から何か懐かしい匂いを感じていました。

最初に勤務した6年間の大半は、東日本大震災の後処理、児童の心のケア等、復興・復旧の日々だったように思われます。地域の方々にも本当にお世話になりました。

二度目の勤務が決まった時、復興・復旧半ばで転勤した私に、神様が「あの頃の続きをなさい。」と言っているように思われました。



小路のこの風景が大好きでした。

再度赴任してみると、校舎のあちらこちらに被災当時の爪痕がまだに残っていたり、支援物資に懐かしさを感じたりする中で、再びこの学校で勤務する以上、この出来事を、未来を生きる子どもたちに伝えていかなければならないと強く思いました。

昨年度、10年目の3.11集会前に児童に震災に関する調査を行いました。その結果、「東日本大震災や津波のことを聞いたことがあるか。」という問いには、全校の77%が「ある」と回答しています。10年経過しても何らかの形で震災のことを耳にすることは、おおかたできているようでした。しかし、20%の児童が「全くない」というのは、被災小学校としては見過ごせないと思いました。この20%は、正面から3.11を見つめる機会がなければ、震災を理解することがないのかもしれないと思いました。特に4年生以下の児童にとって、東日本大震災や津波への関心が薄らいできていることは間違いないと言えました。

また、震災を体験していない教職員が本校に増えているのも現状です。

そこで今年度の3.11集会は、綾里を津波が襲う映像を見せるなど、昨年度以上に力を入れました。そしてこのときの講話が教師としての私の最後の講話になりました。最後の講話のテーマが震災というのも何か運命じみているなあとしみじみ思いました。

私はこの3月で定年退職となり、4月からはしばらく何もせずのんびり過ごすつもりですが、社会との繋がりには絶やさないようにします。

でも、時間をもて余し、そのうちきっとまた何かやりたくなるような予感もします。

綾里にもふらりと立ち寄るかもしれません。その時はよろしく願いいたします。

8年間、本当にありがとうございました。